



淡路プラッツにて(2008年10月)

「誰かを助けてあげたい」という横柄だが、食欲や睡眠欲などと同じ、底の底にある欲望の1つ。理性や建前でやっていたら続かない。そういう人間もいるんですよ」。青少年の自立を支援するNPO法人「淡路プラッツ」の代表を務める田中俊英さんは淡々と、客観的に自己分析する。天職を掴み、「一步一步階段を上がるように、社会に近づいていく」ためのサポートに邁進している。

#### 編集者からの転身

プラッツは1992年、有志の保護者によって設立された。他施設や行政とのネットワークを大切に築きながら、主に通所型のフリースペースとして不登校の子もたちやひきこもり、ニートの若者たちの自立支援活動に取り組んでいる。

編集者だった田中さんは20代半ば、不登校に関する取材のためにプラッツを訪れたのが縁で、ボランティアでキャンプや訪問活動などを手伝うようになった。次第に「自分が本当にやりたいことはこっちな」という思いを強くし、仕事をすっぱり辞めた

転身して2年後の2002年、プラッツのNPO法人化に伴い代表に就任。当時は利用者が3人しかいない時期もあったが、今は10人足らずのスタッフで「1人1人の自立までを丁寧に考えていくと精いっぱい」という15人前後の利用者をサポートしている。

#### 社会との接点の場を創出

「社会に近づく段階の最初の2段階くらい」に位置するというプラッツでは、まず受け付け相談でここでの支援が最適か保護者とともに検討していく。他にもっと適した施設がある場合は積極的に紹介し、「社会参加の実現」により近づける策を提案する。

3カ月の観察期間を経て、各個人に見合った

形態に進む。スポーツやアート、音楽、宿泊イベントなどを通して他人と接することに慣れるよう導いていく。

05年度からは「トライアルジョブ」(就労実習)も取り入れている。「新しい人と知り合い関わること」「働く大人を近くで見て感じること」を目的としており、「賃金報酬なし」「ドタキャンあり」としてプレッシャーを回避。「責任がないことで気安く取り組め、結果ドタキャンもほとんどない」。確かな手応えを得ている。

#### 自立を最優先に

設立当初の16年前と比べ、現状は大きく変化している。「まず利用者の年齢が上がった。そして、ひきこもりにはこれまで言われてきた以上に様々な問題が大きく絡んでいるということが分かってきた」。格差社会や増加するワーキングプア、プレカリアートの若者たち…。社会問題も重くのしかかる。

多様化する問題に応じながら、1日に5人前後の個人面談を受け持つ。「夕方になると消耗し切ってへトへトになる」というほどに精魂尽くす毎日だ。しかし経営は「これまで1度も安定したことがない」という。それは、当事者にとって最も適した支援策を、複数の機関が構成するネットワークの中で考えていくためだ。決して囲い込まない。

「保護者も当事者も孤立している。少しでも元気をつけて帰ってもらうために、悩みを聞くだけでなく情報もいっぱい提供し、一緒になって問題解決策を探していく」。次第に、「戦友」のような心の繋がりが生まれてくるという。「重要な局面を迎えたとき、お互いに共鳴現象が起きることがある」。新たな活力源が生まれる瞬間だ。

(文・江中咲紀 / 写真・高島悠介)

# ネットワークの 一翼として自立を支援

## プロフィール

NPO法人「淡路プラッツ」代表

## 田中 俊英 さん



1964年、香川県生まれ。2000年から「淡路プラッツ」でスタッフとして働く。2002年に代表に就任。2003年、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程(臨床哲学)を修了。共著に『「待つ」をやめるとき「社会的ひきこもり」への視線』『分岐点に立つひきこもり』。今年9月に『「ひきこもり」から家族を考える動き出すことに意味がある』を出版。

NPO法人淡路プラッツ  
〒533-0021 東淀川区下新庄1-2-1  
TEL/FAX 6324-7633  
平日10:00~18:00/金曜13:00~20:00  
土曜11:00~17:00/水・日曜 定休